

恭ニシテ禮無クレバ勞ス 一八六  
 矜ニシテ争ハズ 三九七  
 狂ニシテ直ナラズ 二〇〇  
 凶服者ニ式ス 二五一  
 居安キヲ求ムルコト無シ 一四  
 割正シカラザレバ食ハズ 二四三

く

草コレニ風ヲ尙フレバ偃ス 二九七  
 朽チタル木ハ雕ルベカラズ 一〇一  
 邦道有リテ貧賤ナルハ恥 一九七  
 邦道有レバ穀ス 三三三  
 邦道無クシテ富貴ナルハ恥 一九七  
 位無キヲ患ヘズ、立ツ所以ヲ患フ 八〇  
 食フニ語ラズ 二四三

群居終日言義ニ及バズ 三九二

群シテ黨セズ 三九七

君子重カラザレバ威有ラズ 八

君子多ナランヤ 二一一

君子ノ過チヤ日月ノ食ノ如シ 四八九

君子ノ儒、小人ノ儒 一三〇

君子ノ徳ハ風、小人ノ徳ハ草 二九七

君子ハ争フ所無シ 四七

君子ハ憂ヘズ懼レズ 二八二

君子ハ思フコト其位ヲ出デズ 三五八

君子ハ器ナラズ 二八

君子ハ義ニ喻リ、小人ハ利ニ喻ル 八二

君子ハ周シテ比セズ、小人ハ比シテ周セズ 三〇

君子ハ上達シ、小人ハ下達ス 三五五

君子ハ其親ヲ施テズ 四六七

君子ハ坦カニ蕩蕩 一八三

君子ハ黨セズ 一六七

君子ハ事ヘ易クシテ悦バシメ難シ 三二七

君子ハ本ヲ務ム 二

君子ハ泰クシテ驕ラズ、小人ハ驕リテ泰カラズ 三二八・四九五

君子ハ和シテ同ゼズ 三二五

君子道ヲ學ベバ人ヲ愛シ、小人道ヲ學ベバ使ヒ易シ 四三五

け

敬遠 一三九

敬シテ違ハズ、勞シテ怨ミズ 八四

敬ニ居テ簡ヲ行フ 一二〇

惠ニシテ費サズ 四九五

惠ナレバ人ヲ使フニ足ル 四三七

藝ニ游ブ 一五三

啓發 一五五

賢ヲ賢トシテ色ニ易フ 七

賢ヲ尊ビテ衆ヲ容ル 四七一

賢ヲ見テハ齊シカラントヲ思フ 八三

賢者ハ世ヲ辟ケ、地ヲ辟ケ、色ヲ辟ケ、言ヲ辟ク 三六九

言有ル者ハ必ずシモ徳有ラズ 三三六

言ヲ察シテ色ヲ觀ル 二九八

言ヲ知ラザレバ人ヲ知ルコト無シ 四九六

言ヲ以テ人ヲ擧ゲズ 三九八

こ

剛ヲ好ミテ學ヲ好マザレバ、其蔽ヤ狂 四三九

剛毅朴訥ハ仁ニ近シ 三二九

巧言ハ徳ヲ亂ル 四〇二

巧言令色鮮シ仁 三・四四八

慳嗔トシテ信ナラズ 二〇〇  
 後生畏ルベシ 二二七  
 公ナレバ説ブ 四九四  
 固ヲ疾ム 三六四  
 故舊ハ大故無ケレバ棄テズ 四六七  
 克己復禮 二七九  
 克伐怨欲 三三三  
 告朔ノ餼羊 五七  
 觚觚ナラズ 一四二  
 心ノ欲スル所ニ從ツテ矩ヲ踰エズ 二〇  
 沽酒市脯ハ食ハズ 二四三  
 事ヲ敬シテ食ヲ後ニス 四一三  
 事ヲ先ニシテ得ルコトヲ後ニス 二九九  
 事毎ニ問フ 五五・二四九  
 事ニ敏クシテ言ニ慎ム 一四

事ニハ敬ヲ思フ 四二七  
 事ニ臨ンテ懼レ、謀ヲ好ンデ爲ス 一五七  
 言忠信・行篤敬 三八一  
 言ニ訥ニシテ行ニ敏 九〇  
 言ニハ忠ヲ思フ 四二七  
 言尤メ寡ク行 悔ヒ寡ケレバ、祿其中ニ在リ 三四  
 斯人ニシテ斯疾有リ 一二七  
 コノ日ニ於テ哭スレバスナハチ歌ハズ 一五六  
 五美 四九五  
 虎豹ノ鞞ハ犬羊ノ鞞ノ如シ 二八六  
 コレヲ仰ゲバイヨイヨ高ク、コレヲ鑽レバイヨイヨ堅シ 二一五  
 コレヲイカン、コレヲイカント言ハザル者ハ、ワレコレヲイカントモスルコトナシ 三九一  
 コレヲ知ル者ハコレヲ好ム者ニ如カズ、コレヲ好ム者ハコレヲ樂シム者ニ如カズ 一三七  
 コレヲ賞スト雖モ竊マズ 二九六  
 コレヲ疾ムコト甚シケレバ亂ス 一九四

コレヲ瞻<sup>ミ</sup>レバ前ニ在リ、忽焉<sup>コソ</sup>トシテ後ニ在リ 二一五  
 コレヲ用フレバスナハチ行ヒ、コレヲ舍ケバスナハチ藏<sup>カ</sup>ル 一五七  
 コレニ語ゲテ情ラズ 二二四

シ

才難<sup>サイ</sup>シ 二〇四

酒ノ困<sup>ミ</sup>レヲ爲サズ 二二〇

酒ハ量<sup>ハカリ</sup>無シ、亂ニ及バズ 二四三

三畏 四二五

三愆<sup>セン</sup> 四二三

三戒<sup>カイ</sup> 四二四

三軍モ帥<sup>ス</sup>ヲ奪フヘシ 二三〇

三月肉ノ味ヲ知ラズ 一六〇

三疾 四四七

三省<sup>サイ</sup> 四

三人行ケバ必ずワガ師有リ 一六八

三年言ハズ 三七二

三年父ノ道ヲ改メズ 一一・八六

三年學ビテ穀ニ至ラズ 一九六

三變 四七七

三友 四二一

三樂 四二二

し

四惡 四九五

四海兄弟 二八三

四勿<sup>シ</sup> 二七九

四方ニ使<sup>ツカヒ</sup>シテ君命ヲ辱<sup>ハツカ</sup>シメズ 三二二

志學<sup>シダク</sup> 二〇

耳順<sup>ミミ</sup> 二〇

死生命有リ 二八三  
 質直ニシテ義ヲ好ム 二九八  
 斯道<sup>シドク</sup> 一三四  
 斯文<sup>シブン</sup> 二一〇  
 詩ヲ學バザレバ以テ立ツコト無シ 四三〇  
 詩ニ興<sup>オウ</sup>リ、禮ニ立チ、樂ニ成ル 一九二  
 詩ハ、興スベク、觀ルベク、群スベク、怨ムベシ 四四〇  
 辭<sup>ジ</sup>ハ達シテ己ム 四一六  
 駟<sup>シ</sup>モ舌ニ及バズ 二八六  
 周シテ比セズ 三〇  
 終日食<sup>クラ</sup>ハズ、終夜寢<sup>イ</sup>ネズ 四〇六  
 春服既ニ成ル 二七八  
 醬<sup>シヨウ</sup>ヲ得ザレバ食ハズ 二四三  
 小ヲ忍バザレバ大謀ヲ亂ル 四〇二  
 小人ノ過チヤ必ズ文<sup>カサ</sup>ル 四七六

小人窮スレバココニ濫<sup>ラン</sup>ス 三七七  
 小人ハ事<sup>ツカ</sup>ヘ難クシテ悦バシメ易シ 三二七  
 小人ハ長<sup>トコシナ</sup>ヘニ戚戚<sup>セキセキ</sup> 一八三  
 小知・大受 四〇九  
 小利ヲ見ルナカレ 三一九  
 上知ト下愚トハ移ラズ 四三四  
 常師無シ 四九〇  
 食飽クヲ求ムルコト無シ 一四  
 食ヲ足シ、兵ヲ足シ、民コレヲ信ニス 二八五  
 而立<sup>ツリツ</sup> 二〇  
 知ルヲ知ルト爲シ、知ラザルヲ知ラズト爲ス 三三  
 深淵ニ臨ムガ如シ 一八七  
 信ヲ好ミテ學ヲ好マザレバ、其蔽ヤ賊 四三九  
 信<sup>イニシ</sup>シテ古<sup>イニシ</sup>ヲ好ム 一四八  
 信ゼラレテ後ニ諫ム 四七八

信セラレテ後ニ其民ヲ勞ス 四七八  
 信ナレバ人任ズ 四三七・四九四  
 飪シヲ失ヒタルハ食ハズ 二四三  
 仁ヲ好ミテ學ヲ好マザレバ、其蔽カサヤ愚 四三九  
 仁ヲ爲スハ己ニ由ル 二七九  
 仁ヲ踏ミテ死スル者ヲ見ズ 四一〇  
 仁ヲ求メテ仁ヲ得タリ 一六一・四九五  
 仁ニ當リテハ師ニ讓ラズ 四六一  
 仁者ハイノチナガ壽シ 一四〇  
 仁者ハ憂ヘズ 二三三  
 仁者ハ必ず勇有リ 三三六  
 仁者ハ靜ナリ 一四〇  
 仁者ハ仁ニ安ンズ 六八  
 仁者ハソノ言フヤカクシ詎ズ 二八一  
 仁者ハ山ヲ樂ム 一四〇

迅雷風烈ニハ必ず變ズ 二五一

す

遂事スヱハ諫メズ 六一  
 出納スヱトクノ各ヤフサカナル、コレヲ有司ト謂フ 四九五  
 過ギタルハ猶ホ及バザルガゴトシ 二六八  
 寡スナキヲ患ヘズシテ均シカラザルヲ患フ 四一八  
 進ムヲ見ル、退クヲ見ズ 二二五  
 進ムヲ與ユルス、退クヲ與サズ 一七五  
 速カナランヲ欲スルナカレ 三一九

せ

性相近シ、習相遠シ 四三三  
 生ヲ求メテ仁ヲ害セズ 三八四  
 成事ハ説カズ 六一

盛饌アレバ色ヲ變ジテ作ツ 二五一

政ハ正ナリ 二九五

席正シカラザレバ座セズ 二四四

切瑳琢磨 一五

切切惔惔怡怡如タリ 三三〇

善ヲ學ゲテ不能ヲ教フレバ勸ム 三六

善ヲ見テハ及バザルガ如クス 四二八

善ヲ嘉ミシテ不能ヲ矜ム 四七一

善買ヲ求メテコレヲ沽ラン 二一七

善ニ伐ルコト無シ 一一七

先覺者 三六三

戰戰兢兢 一八七

そ

莊ヲ以テ泄マザレバ民敬セズ 四〇八

造次顛沛 七一

速成 三七六

伎ハズ求ラズ、何ヲ用ツテカ臧カラザラン 二三一

疏食ヲ飯ヒ水ヲ飲ミ肱ヲ曲ゲテ枕トス 一六二

備ハルヲ求メズ 三二七・四六七

其争ヤ君子 四七

其鬼ニアラズシテコレヲ祭ルハ諂フナリ 四〇

其愚ヤ及ブベカラズ 一一二

其位ニ在ラザレバ其政ヲ謀ラズ 一九八・三五八

其言ノ其行ニ過グルヲ恥ヅ 三五九

其中ヲ執ル 四九四

其德ヲ恒ニセズンバ或ハコレニ羞ヲ承ム 三二四

ソレ然リ、アニソレ然ランヤ 三四五

た

- 大過無シ 一六三
- 大賢ハ愚ナルガ如シ 二五
- 大車輓ゲイ無ク小車軌ゲツ無シ 三八
- 大受・小知 四〇九
- 大節ニ臨ンデ奪フベカラズ 一九〇
- 大徳閉ノリヲ踰コエズンバ、小徳ハ出入ストモ可ナリ 四七九
- 大廟ニ入りテ事毎ニ問フ 五五・二四九
- 耕ウツスヤ餒ウツ其中ニ在リ 四〇七
- 諾ヲ宿セズ 二九〇
- 託孤寄命 一九〇
- タダ天ヲ大ナリト爲ス 二〇三
- 樂ンデ淫イシセズ 六〇
- 樂ンデ憂ヲ忘ル 一六五
- 民ヲ使ヒテハ大祭ヲ承クルガ如クス 二八〇
- 民ヲ使フニ時ヲ以テス 五

民信無クバ立タズ 二八五

ち

- 知ヲ好ミテ學ヲ好マザレバ、其蔽ヘイヤ蕩トウ 四三九
- 近キ者悦ベバ遠キ者來タル 三一八
- 知者ハ動ク 一四〇
- 知者ハ仁ヲ利ス 六八
- 知者ハ樂ム 一四〇
- 知者ハ惑ハズ 二三三
- 知者ハ水ヲ樂ム 一四〇
- 父ノ臣ト父ノ政トヲ改メズ 四八六
- 父ハ子ノ爲メニ隱シ、子ハ父ノ爲メニ隱ス 三二〇
- 知命・知禮・知言 二〇・四九六
- 忠告シテコレヲ善導ス 三〇一
- 中庸ノ徳民鮮スツナキコト久シ 一四六



直ヲ好ミテ學ヲ好マザレバ、其蔽ヤ絞 四三九  
直ニシテ禮無ケレバ絞ス 一八六

つ

仕ヘテ優ナレバ學ブ 四八一  
慎ム所ハ齊戰疾 一五九  
鼓ヲ鳴ラシテコレヲ攻ム 二六九  
罪ヲ天ニ得バ禱ル所無シ 五三  
釣シテ綱セズ 一七三

て

鄭聲ノ雅樂ヲ亂スヲ惡ム 四四九  
鄭聲ハ淫ニ、佞人ハ危シ 三八六  
貞ニシテ諒ナラズ 四一一  
適モ無ク莫モ無シ 七六

涅スレドモ縞マズ 四三八

天ヲ怨ミズ、人ヲ尤メズ 三六七

天下ヲ三分シテ其二ヲ有ツ 二〇四

天下ヲ有チテ與カラズ 二〇二

天德ヲワレニ生ズ 一六九

天何ヲカ言フヤ 四五〇

天ノ階シテ升ルベカラザルガ如シ 四九三

天ワレヲ喪ボセリ 二六一

と

道聽塗説 四四五

同シテ和セズ 三二五

侗ニシテ感ナラズ 二〇〇

堂ニ升レリ、未ダ室ニ入ラズ 二六七

徳有ル者ハ必ズ言有リ 三三六

徳ヲ好ムコト色ヲ好ムガ如シ 二二二・三八八  
 徳ヲ知ル者ハ鮮シ 三七八  
 徳ヲ以テ怨ニ報フ 三六六  
 徳孤ナラズ必ズ隣アリ 九一  
 時ナラザルハ食ハズ 二四三  
 時ナルカナ、時ナルカナ 二五四  
 歳寒クシテ松柏ノ凋ムニ後ルルヲ知ル 二三二  
 斗筭ノ人何ゾ算フルニ足ラン 三二二  
 遠キ慮無クレバ近キ憂有リ 三八七  
 富ミテ驕ルコト無シ 一五  
 富ミテ禮ヲ好ム 一五  
 朋有リ遠方ヨリ來タル 一  
 與ニ詩ヲ言フベシ 一五・四九  
 鳥ノマサニ死ナントスルヤソノ鳴クコト哀シ 一八八

な

苗ニシテ秀デス 二二六  
 直キヲ暴ゲテコレヲ枉レルニ錯ク 三五・三〇〇  
 直キヲ以テ怨ニ報ヒ、徳ヲ以テ徳ニ報フ 三六六  
 名ヲ正サン 三〇五  
 ナンヂヲ思ハザランヤ、室コレ遠シ 二三五

に

臭悪シキハ食ハズ 二四三  
 肉多シト雖モ食氣ニ勝タシメズ 二四三  
 鶏ヲ割クニ何ゾ牛刀ヲ用ヒン 四三五  
 任重クシテ道遠シ 一九一

ね

佞者ヲ惡ム 二七七

の

能ヲ以テ不能ニ問フ 一八九  
 能無キヲ病フ 三九四  
 述ベテ作ラズ 一四八

は

億<sup>ハカ</sup>レバシバシバ中<sup>アタ</sup>ル 二七一  
 薄氷ヲ履ムガ如シ 一八七  
 薑<sup>シカ</sup>ヲ撤セズシテ食フ 二四三  
 始有<sup>オハ</sup>リ卒有<sup>オハ</sup>リ 四八〇

ひ

久シクシテコレヲ敬ス 一〇八  
 比シテ周セズ 三〇

排セザレバ發セズ 一五五  
 斐然<sup>ヒゼン</sup>トシテ章<sup>アキ</sup>ヲ成ス 一一三  
 匹夫<sup>ヒツフ</sup>モ志ヲ奪フベカラズ 二三〇  
 人ヲ愛シ、人ヲ知ル 三〇〇  
 人ヲ誨<sup>オシ</sup>ベテ倦<sup>ウツ</sup>マズ 一四九・一八〇  
 人ヲ以テ言ヲ廢セズ 三九八  
 人知ラズシテ慍<sup>イキドホ</sup>ラズ 一  
 人ニシテ恒無クンバ、以テ巫醫<sup>フイイ</sup>ヲ作スベカラズ 三二四  
 人ノ惡ヲ稱スル者ヲ惡ム 四五五  
 人ノ生クルヤ直<sup>ナホ</sup>シ 一三六  
 人ノ己ヲ知ラザルヲ患ヘズ、人ヲ知ラザルヲ患フ 一六・三九四  
 人ノ子ヲ賊<sup>ソコナ</sup>フ 二七七  
 人ノ美ヲ成シテ人ノ惡ヲ成サズ 二九四  
 人ノマサニ死ナントスルヤ、ソノ言フコト善シ 一八八  
 人能ク道ヲ弘ム 四〇四

被髮左衽 三四九

百工ハ肆ニ居テ其事ヲ成シ、君子ハ學ビテ其道ヲ致ス 四七五

百里ノ命ヲ寄スベシ 一九〇

非禮視ルナカレ、非禮聽クナカレ、非禮言フナカレ、非禮動クナカレ 二七九

博ク民ニ施シテ能ク衆ヲ濟フ 一四七

博ク文ヲ學ビテ約スルニ禮ヲ以テス 一四四 二九三

博ク學ビテ篤ク志シ、切ニ問ヒテ近ク思フ 四七四

博ク學ビテ名ヲ成ス所無シ 二〇七

博ムルニ文ヲ以テシ、約スルニ禮ヲ以テス 二一五

敏ナレバ功有リ 四三七・四九四

貧ニシテ怨ムコト無ク、富ミテ驕ルコト無シ 三四二

貧ニシテ樂シム 一五

貧ニシテ諂フコト無シ 一五

富貴天ニ在リ 二八三

深ケレバ厲シ、淺ケレバ揭ス 三七一

不可ナルヲ知ツテコレヲ爲ス 三七〇

不義ニシテ富ミ且貴キハ浮ベル雲ノ如シ 一六二

不賢ヲ見テハ内自ラ省ミル 八三

不善ヲ見テハ湯ヲ探ルガ如クス 四二八

不遜ナランヨリハムシロ固ナレ 一八二

不遜ニシテ勇ト爲ス者ヲ惡ム 四五五

負版者ニ式ス 二五一

父母在ストキハ遠ク游バズ、游ベバ必ズ方アリ 八五

父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ 三七

父母ニ仕ヘテハ漸ク諫ム 八四

父母ノ年ハ知ラザルベカラズ 八七

父母ハタダ其疾ヲ憂フ 二二二

故キヲ温ネテ新シキヲ知ル 二二七

不惑フク 二〇

女ヲ以テ友ヲ會シ、友ヲ以テ仁ヲ輔クタス

三〇二

文行忠信 一七一

文質彬彬 一三五

憤セザレバ啓セズ 一五五

糞土ノ牆ハ朽ルベカラズ 一〇一

へ

片言獄ヲ折ム 二九〇

籩豆ノ事ハ有司存セリ 一八八

ほ

暴虎馮河死シテ悔無キ者 一五七

木鐸ボクダク 六四

欲シテ食ラズ 四九五

ま

誠ニ富ヲ以テセズ、祇ニ異ヲ以テス 四二九

磨スレドモ磷ガズ 四三八

貧シキヲ患ヘズシテ、安カラザルヲ患フ 四一八

政ヲ爲スニナンゾ殺ヲ用ヒン 二九七

祭ニ與カラザレバ祭ラザルガ如シ 五二

祭ニハ敬ヲ思フ 四六九

祭ルニ在スガ如シ 五二

學ビテ厭ハズ 一四九

學ビテ思ハザレバヌナハチ問シ 三一

學ビテ而シテ時ニコレヲ習フ 一

學ビテ優ナレバ仕フ 四八一

學ブヤ祿其中ニ在リ 四〇七

免レテ恥無シ 一九

み

身ヲ殺シテ仁ヲ成ヌ 三八四  
 道有レバ見<sup>ア</sup>ハレ、道無ケレバ隠ル 一九七  
 道同ジカラザレバ相爲メニ謀ラズ 四一五  
 道ヲ憂ヘテ食ヲ憂ヘズ 四〇七  
 道ヲ謀リテ食ヲ謀ラズ 四〇七  
 道ヲ以テ君ニ事ヘ、不可ナレバ止ム 二七六  
 道ニ聽キテ塗ニ説クハ徳ヲ棄ツルナリ 四四五  
 道ノ行ハレントスルヤ命ナリ、道ノ廢レントスルヤ命ナリ 三六八  
 親<sup>ミツカ</sup>ラ其身ニ於テ不善ヲ爲ス者ニハ君子ハ入ラズ 四三八  
 實<sup>ミ</sup>ツレドモ虚<sup>ムナ</sup>シキガ如シ 一八九  
 躬<sup>ミ</sup>自ラ厚クシテ人ヲ責ムルニ薄シ 三九〇  
 視ルニハ明ヲ思フ 四二七

む

無爲ニシテ治マル 三八〇  
 紫<sup>アケ</sup>ノ朱ヲ奪フヲ惡ム 四四九

め

命ヲ知ラザレバ君子爲ルナシ 四九六

も

默シテコレヲ識ス 一四九  
 本立チテ道生ズ 二  
 喪<sup>モ</sup>ニハ哀ヲ思フ 四六九  
 喪<sup>モ</sup>ハ哀ヲ致シテ止ム 四八二  
 門ヲ出デテハ大賓ヲ見ルガ如クス 二八〇

や

約ヲ以テコレヲ失フ者ハ鮮シスナ 八九

ゆ

勇ヲ好ミテ學ヲ好マザレバ、其蔽ヤ亂 四三九

勇ヲ好ミテ貧ヲ疾メバ亂ス 一九四

勇ニシテ禮無キ者ヲ惡ム 四五五

勇ニシテ禮無ケレバ亂ス 一八六

勇者ハ懼レズ 二二三

勇者ハ必ずシモ仁有ラズ 三三六

逝カシムベシ、陷ルベカラズ 一四三

逝クモノハ斯ノ如シ、晝夜ヲ舍カズ 二二二

行クニ徑ニ由ラズ 一三一

往ク者ハ諫ムベカラズ、來タル者ハ猶ホ追フベシ 四六二

夢ニ周公ヲ見ズ 一五二

よ

弋シテ宿ヲ射ズ 一七三

由ラシムベシ、知ラシムベカラズ 一九三

り

利ヲ見テハ義ヲ思フ 三四四

利ニヨリテ行ハバ怨ミ多シ 七八

利口ノ邦家ヲ覆ヘスヲ惡ム 四四九

六言ノ六蔽 四三九

六尺ノ孤ヲ託スベシ 一九〇

兩端ヲ叩キテ竭ス 二二二

れ

禮ヲ學バザレバ以テ立ツコト無シ 四三〇・四九六  
 禮ト云ヒ禮ト云フ、玉帛ヲ云ハンヤ 四四二  
 令ヲ慢ニシテ期ヲ致ス、コレヲ賊ト謂フ 四九五

ろ

勞ヲ施スコト無シ 一一七  
 勞シテ怨ミズ 四九五  
 老者ハコレヲ安ンジ、朋友ハコレヲ信ジ、少者ハコレヲ懷ク 一一七

わ

和ヲ用ツテ貴シト爲ス 一一二  
 和シテ同セズ 三二五  
 3125  
 ワガ足ヲ啓ケ、ワガ手ヲ啓ケ 一八七

新 譯 論 語

昭和二十二年一月一日印刷  
 昭和二十二年一月十日發行

定價 七十五圓

著 者 有 所

著者 穂積重遠  
 東京都小石川區丸山町二十一  
 發行者 財團法人社會教育協會  
 右代表者 小松謙助  
 東京都小石川區戸崎町七十一  
 印刷者 小泉輝章

發行所、財團法人社會教育協會  
 東京都小石川區丸山町二十一番地

電話大塚(86) 六六六三番  
 一六〇〇四番  
 振替口座東京二一八三番  
 出版協會會員番號B二九〇〇

配給元 東京都神田區淡路町二ノ九 日本出版配給株式會社

(所本製刷印泉小)





終